

講義名	対1) 商業簿記 (経営学科)			授業形態	
担当教員	来栖 正利	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限 / 前期 木曜日 4時限		
		単位数	4	履修開始年次	2年生

主題と概要

日本商工会議所主催の日商簿記検定3級の出題範囲に掲げられている簿記技法の標準事項を講義することが本講義の目的である。

到達目標

日本商工会議所主催の日商簿記検定3級に出題される問題が適切に解答できるならば、本講義が掲げる到達目標に十二分に到達していると理解できる。

提出課題

講義内容に関するレポート課題を、毎回、レスポンスを作成・提出してもらいます。これは講義に実際に出席したか否かを問わず、出席調査を兼ねます。なお、出席調査を加点の対象にはしないもののレポート課題実施回数に対して1/3以上を提出しなかった場合、履修放棄と判断し、最終評価を確定します。したがって、講義に出席したにも関わらず、レポート課題を提出しなかった場合には「欠席」となります。

課題 (レポートや小テスト等) に対するフィードバックの方法

解答等を配布資料としてPortalにアップする予定です。

評価の基準

(1) 100点満点の定期試験の得点に基づいて最終評価を確定する。なお、コロナ感染症の状況によって定期試験の実施が不可能になる可能性を踏まえて、講義期間中に実施する課題作成と提出を欠かさないようしてください。

(2) コロナ感染症による定期試験の中止を踏まえて、日本商工会議所主催の簿記検定3級の合格を加点対象にする。在籍中の合格であれば、オンライン受験であるか会場受験であるかを問わない。詳細は7月中に説明する。

履修にあたっての注意・助言他

簿記は他の講義と異なり、予習と復習に時間をかけ、問題の理解と解き方を何度も繰り返して身につけなければなりません。地道な努力を要する科目であることを十分理解しておくことが必要です。

教科書

.日商簿記3級に"とある"テキスト(商業簿記).	ネット・スクール	ネット・スクール	2200	9784781033099
.日商簿記3級"とある"トレーニング(商業簿記).	ネット・スクール	ネット・スクール	2200	9784781033105

参考図書

.なし.				

その他
ありません

授業計画

第1回 講義概要
第2回以降 -
Chapter1 身のまわりの簿記
Chapter2 仕訳と簿記
Chapter3 現金と預金
Chapter4 収益と費用
Chapter5 商品売買
Chapter6 固定資産
Chapter7 その他の債権債務
Chapter8 一時的な処理
Chapter9 会社の設立と利益の計上・配当
Chapter10 試算表作成
Chapter11 決算整理
Chapter12 損益表・財務諸表
Chapter13 帳簿
Chapter14 伝票会計

講義の進捗状況に基づいて講義項目を差し替える可能性がある。

授業形態 (アクティブ・ラーニング)

<input type="radio"/> A: PBL (課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> I: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="checkbox"/> W: ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> E: グループワーク
<input type="checkbox"/> O: プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> K: 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K: その他 (A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習2時間、復習2時間といった十分な時間をかけて努力することが必要です。講義内容を理解していても、問題の解答を制限時間内に得ることができなければ、講義内容を理解しているとはいえない。類似問題を何度も繰り返し解くという地道な努力を継続して行うことが必要である。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義は基礎簿記に記載した内容を踏まえて、さらに社会人としての理解しておくべき基本事項に関するさらなる習熟を目指し、隣接する学問領域の関連知識に気づくことを目指す。具体的には下記の通りです。

(1) : 自業界の動向や問題点を理解するための基礎知識を身につけ、これをもとに、企業マネジメントに関する問題探索、課題提案ができる : 3ポイント
(2) : 簿記・会計の学問的知識を身につけ、企業の財政状態、経営成績、キャッシュフロー等に関する情報を作成、分析することができる : 3ポイント
(3) : 企業の社会的役割を理解したうえで、修得した専門知識をもとに企業が直面する問題や企業の強みを発見し、経営戦略の構築に貢献することができる : 3ポイント

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

基本知識ならびに基本技法習得を目指す講義であり、議論を主軸に運営する講義ではありません。

実務経験の有無及び活用

ありません

備考

地道にコツコツと努力することを希望します、自分自身のために。